

会 議 録

会議の名称	第3期 小金井市地域自立支援協議会 （第6回）
事務局	福祉保健部障害福祉課、地域生活支援センターそら
開催日時	平成24年12月25日（火） 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>高橋智委員(会長)、矢野典嗣委員（副会長）、鈴木日和委員、馬場利明委員、中村悠子委員、森田純司委員、森田史雄委員、ボーバル聡美委員、大久保昌弘委員、堀池浩二委員、水野元子委員</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>子ども家庭部長 深澤義信 保育課長 鈴木遵矢</p> <p>【事務局】</p> <p>福祉保健部長 佐久間育子 障害福祉課障害福祉係長 藤井知文 障害福祉課相談支援係長 高田明良 障害福祉課障害福祉係主任 北村奈美子 地域生活支援センターそら 伊藤奈保子</p>
傍聴の可否	可
傍聴者数	1人
会議次第	別紙会議録のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	添付のとおり

第3期 第6回小金井市地域自立支援協議会 議事要旨

日時：平成24年12月25日(火) 14:00～16:00

場所：前原暫定集会施設 A会議室

出席者：協議会委員 11名

福祉保健部長

子ども家庭部長

保育課長

障害福祉課障害福祉係長

障害福祉課相談支援係長

障害福祉課障害福祉係主任

地域生活支援センター そら

配布資料 1： 小金井市の発達支援事業に係る基本理念及び（仮称）小金井市児童発達支援センターに係る基本的な計画（資料1）

2： 平成24年度 東京都自立支援協議会セミナー参考資料（資料2）

1. 開会

事務局 （藤井係長）	・開催にあたり、配布資料の確認。 ・秦委員・赤木委員より、欠席の連絡が入っている。 ・本日より発達支援の協議となる。現在の所管課である保育課の鈴木保育課長にオブザーバーとして出席していただく。一言挨拶をお願いしたい。
保育課 （鈴木課長）	～保育課長の鈴木です。よろしくお願い致します。～
事務局 （藤井係長）	・なお、同時に別途会議が進行中のため、鈴木保育課長は途中退席となる旨了承いただきたい。

2. 議題

（1）発達支援に関する協議① 保育課からの報告

高橋会長	・本日の会議は、出席者11名となり、本協議会は成立。 ・議題(1)の「発達支援に関する協議①」に入る。 ・まず、鈴木保育課長より報告をお願いしたい。
保育課 （鈴木課長）	・資料1「小金井市の発達支援事業に係る基本理念及び（仮称）小金井市児童発達支援センターに係る基本的な計画」を参照。 ・様々な意見を聴取し、庁内で設置した発達支援事業検討部会でその意見等をふまえ慎重に検討し、8月29日に開催した庁議（市長・副市長・教育長・部長職で構成された市の具体的な意思決定機関）で決定した。 ・今後の小金井市の発達支援事業については、この理念に基づき進めて行くことになる。 ・P. 1に5つの基本理念を示している（資料参照）。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ P. 2 以降は、基本理念に基づき設置される（仮称）小金井市児童発達支援センターに係る基本的な計画の内容となっている。 ・ この事業は、東小金井駅北口の土地地区画整理事業により、移転・建替えが予定されている「けやき保育園」・「ピノキオ幼児園」のうち、これまで法外施設として運営を行ってきた「ピノキオ幼児園」について、平成 25 年 10 月から子どもの発達を支援する施設「（仮称）小金井市児童発達支援センター」として再整備し、開設する。 ・ 基本方針として 3 つの方針を掲げている（資料参照）。 ・ 児童発達支援センターで行なう事業内容は、相談部門・発達支援部門・通園部門の大きく分けて 3 つ。 ・ 児童発達支援センターの運営は、経験のある社会福祉法人への委託を予定している。 ・ 9 月に開催された第 3 回市議会定例会で提出した補正予算は、原案のとおり可決された。現在、基本理念及び基本的な計画に基づき詳細な計画の策定作業を行なっている状況となっている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残念ながら本日は「ひまわりママ」と「ピノキオ幼児園」の保護者の方の出席は叶わなかった。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回以降で調整する。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達支援事業については、月 1 回市民向けに意見交換会が開催され、すでに 13 回が開催されている。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ パブリックコメントが開催されているが、どのような内容が寄せられているのか知りたい。
保育課 （鈴木課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な内容については、ホームページに掲載している。15 名から 40 件の意見が寄せられた。条例に関することや基本理念や基本的な計画に関すること、その他の発達支援に関すること等が寄せられている。それに対する市の考え方を示している形で掲載している。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで「ピノキオ幼児園」は法外施設だった。児童福祉法の改正により、発達支援事業の整備が必要となった。 ・ 今まで手付かずだった、就学前の発達支援の整備が徐々に進んできている。 ・ これを契機にして、就学前の発達支援の体制の強化を図ることが目的となっている。
保育課 （鈴木課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置される場所は、東小金井駅の北側を新宿方面へ 200m 進んだところの区画整理予定区域内となる。「けやき保育園」と併設される形で、平成 25 年 10 月 1 日開所を目指し進めている。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員構成は重要だと思われる。指導員の配置体制が重要だと考える。どのくらいの規模で考えているのか。全ての専門職が配置できるのか。
保育課 （鈴木委員）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、詳細な事業の計画を作成しているところ。職種や人員配置についての検討も行なっている。 ・ 来年度に委託契約を行ない、その後具体的な配置が決定される見込み。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通園部門の通常通園については、2 歳以上の未就学児ということになっている。保育園に入ると訓練は受けられないと考えるのか。
保育課 （鈴木課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘のとおり。「ピノキオ幼児園」で実施していた事業内容については、新しい施設で継続的に実施する。 ・ それ以降の年齢となった場合は、発達支援部門の放課後等デイサービスの対

	象となり、学齢児童対象事業の利用となる。
馬場委員	・放課後等デイサービスは居場所となり、訓練ではないのではないか。
堀池委員	・放課後等デイサービスというのは、居場所ということだけではなく、療育及び地域での居場所作りという規定となっている。そのため、放課後等デイサービスの中でも一定の療育は行なうと認識している。
馬場委員	・個別や集団的な指導を受けられるということによいのか。
堀池委員	・部屋の割り振り等の関係で検討しているところ。
馬場委員	・個別指導は受けられるということか。
堀池委員	・現段階では、明言できない。
馬場委員	・放課後等デイサービスだと療育を受けられるのか。
堀池委員	・訓練等を継続的に提供することと厚生労働省から出されている。加えて、放課後等の居場所作りを推進することとなっている。
馬場委員	・個別の訓練を同じ事業所で実施してもらえようような体制を整えてもらいたい。
高橋会長	<p>・発達支援事業については、これまでも多くの意見が出されている。発達支援部門は、小学校 6 年生までを対象とし、相談部門は 18 歳未満として限定されている。発達支援事業の意見交換会で毎回のように意見が出されているところ。</p> <p>・17 歳で相談は終了し、その後は市への相談となる。高校を卒業した子どもが、障がいを持っているとして、最初から障がいとつく名前のところに相談へ行くわけがない。敷居が高い。</p> <p>・高校生や大学生、あるいは大人になって中途診断を受けた人が利用できる受け皿作りをしていかないといけない。残念ながら小金井市にはない。</p> <p>・生涯にわたる支援をしてほしい、年齢区分を排除してほしい、相談だけは広げてもらいたい、などという意見も多くある。</p> <p>・20 代・30 代を視野に入れた発達支援センターの設立を希望したい。</p> <p>・この自立支援協議会としては、この件についてどのような位置づけになるのか。</p>
堀池委員	<p>・平成 25 年 4 月 1 日より、児童発達支援センターは障害福祉課が所管となることが決定している。ライフステージに応じた支援をしていくために、この自立支援協議会では、地域の中の事業所との連携やどのような課題があるのか等について意見をいただきたい。実際に発達支援センターが開所してからの課題等も多くあると思われる。</p> <p>・よりよい支援体制を作っていくための協議の場として位置づけたいと考えている。</p>
高橋会長	<p>・これまでは、子ども家庭部が中心となってやってきたはず。しかし、今後は障害福祉課となる。今後は、明確に発達支援部門という部署を作っていかなくてもならないと思う。障害福祉課の中で、専門の職員を配置する必要がある。</p> <p>・一番危惧するところは、障がいとして、認められなかったり認められなかったりする部分や、障がいとして扱う必要があるのかどうかというところ。障害福祉課でどのように対応していくつもりなのか。</p>
堀池委員	<p>・障害者施策の中で、自立支援協議会・特別支援ネットワーク協議会などに加え、児童発達支援センター運営協議会も障害福祉課が所管することになる。これら様々な協議する場があるが、それを今後どのように一体化するのか、連携をどのようにするのか等、課内で検討しているところ。</p> <p>・平成 25 年 10 月より、児童発達支援センターがスタートする。来年度早々に</p>

	<p>何かしらの動きは出ると思われる。どのような形で様々な協議会の部分を連携していくのかを示したいと思っている。3部7課での協議は行なっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的には、一本化すること等についても検討していきたいと考えている。 ・ライフステージに応じた支援を検討している。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、小金井市教育委員会の方にお越しいただき、本日来られなかった親の会の方々にも出席してもらえたと思っている。 ・発達支援の部分で3部7課の連携はなかなか大変な状況がある。自立支援協議会では、大人の問題の検討がある。のびゆく子どもプランでは子供の問題の検討、教育委員会では中学校を卒業した後の問題、子ども家庭部では、東京学芸大学の発達支援センターとの連携業務の検討がある。以上のように個人が4つの会議に出席しないと実情が見えてこないし、動いていかない状況がある。 ・3部7課の連携は、言うは易く行うは難しという状況ではある。今後は、障害福祉課がどこまでイニシアチブをとっていくのかというところが重要。期待はあるが、正直なところ不安もある。 ・意見が出されないという状況から考えると、やはり子どもの問題と大人の問題がつながらない部分もあるからだと思われる。一本にまとめて、継続的な支援をしていく必要がある。 ・他市の状況等についても把握する必要がある。傍聴に来ている東京学芸大学の学生が小金井市の発達支援事業を卒業論文としてまとめている。他市との比較など、様々な調査を実施している。次回の自立支援協議会で報告してもらうことを考えている。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・命にかかわる程、子どもの食物アレルギーがひどい友人から話を聞いたが、健康課でも子ども家庭支援センターでもどこにも受け皿がないという話をしていた。その受け皿について、どのようになっているのか。
保育課 (鈴木課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市でもアレルギーのある児童の保育を実施している。また、エピペン持参の児童についてもマニュアルを作成し、公立園では受け入れており、民間認可園についても受入れの検討をお願いしている。しかし、アレルギーがあり、発達障がいのある子どもとなると、障がいのある人の枠になり、そうなる選択肢は限られてしまう。 ・障がいのある子どもについては、全ての方に満足してもらえるような状況にはなっていない。今後の検討課題となる。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・加えて、金銭的な援助がないという声もあった。障がいがあるという状況で、アレルギーもあるとなると、特別食となるため、通常の家よりも5万円以上は生活費が増加する状況となる。経済的な援助がないと厳しい。 ・いろいろな課には相談してきたが、該当はしなかった。団体として動けないかということも話していた。何か支援があればと思う。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉課では、難病の医療費助成をしている。窓口にお越しいただいたかどうか不明ではあるが、そのような助成もある。ただし、難病に該当するかどうか。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・話に挙がっている方は、私が知っている事例と同じ方かも知れないが、難病ではなく対象外のケース。そのため金銭的な支援は利用できない。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギーという状況。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・先日、小金井市の子供元気プロジェクトが開催され、小金井市長と話をする機会があった。小金井市では、食育を重点項目として掲げている。食育の問題、

	<p>アレルギー対策についての取り組みは必要。アレルギーは、元々持っている人が重篤化する方もいるし、突然劇症化するという方もいる。体調にも左右される。</p> <p>・この問題は、発達支援にも関連し、とても重要。教育委員会と問題を共有しながら食育の問題に取り組んでいってほしい。</p>
馬場委員	<p>・大事な問題だと感じるが、仮にそのような子どもがいた場合の本当の主管課はどこになるのか。児童発達支援センターになるという認識でよいのか。</p>
佐久間部長	<p>・食育については、健康課が所管となる。児童発達支援センターについては、平成 25 年 4 月より障害福祉課となるが、あくまでも中心となって動くところが障害福祉課ということであり、他課との連携は必須であり、一緒に支援の方法を考えていく。</p> <p>・東小金井駅前に日本歯科大学の口腔リハビリテーションクリニックが開設された。摂食障害の専門的な治療を行なっている。</p> <p>・所管課と連携し、食育やアレルギー等に関するアドバイス等をもらいながら、発達支援事業に活かしていく。</p> <p>・連携先としては、資料の最終ページに記載されている関係図の形になる。</p> <p>・様々な有効な手段を活用しながらよりよい支援をしていきたいと思っている。</p> <p>・これから始めるところであるため、他市の状況等も把握しながら進めていきたいと思っている。</p>
高橋会長	<p>・日本歯科大学の口腔リハビリテーションクリニックについては、期待を寄せている。重要な連携先として、支援体制の構築をお願いしたい。</p> <p>・本日の発達支援に関する協議はここまでとする。</p> <p>・次回は、小金井市教育委員会の出席ということでよいのか。</p>
堀池委員	<p>・調整はまだ。「ひまわりママ」「ピノキオ幼稚園」の保護者の出席については、子どもが帰る時間帯と重なるため、その辺りの調整が必要となり、こちらも現在調整中。</p>
高橋会長	<p>・先ほども提案をしたが、東京学芸大学の研究室で発達支援についてまとめたので、次回はその報告を聞いていただきたい。他市との比較もしている。発達支援の意見交換会のまとめもしている。効果的に理解するにはよいと思われる。</p> <p>・その他、協議内容についての意見はあるか。</p>
一同	<p>・異議なし。</p>

(2) その他

一同	<p>・特になし。</p>
----	---------------

2. (1) 小金井市福祉共同作業所条例の改正について

堀池委員	<p>・小金井市福祉共同作業所が福祉会館の地下 1 階にある。これまでは、法外施設として運営されてきたが、今年度中に法内の事業化を進めるということになった。</p> <p>・平成 25 年 4 月 1 日より、障害者自立支援法の法内施設として移行する。事業としては、生活介護の定員 10 名、就労支援継続 B 型の定員 10 名の移行を考えている。</p>
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の条例は法外施設となっているため、法内施設にした条例に変更する。2月議会で提出する。 ・これに伴い、11月19日～12月18日までパブリックコメントを募集した。3人の方から3件の意見が寄せられた。意見の検討結果の作業を進めているところ。公表は、1月9日を予定している。2月中旬までホームページで公開する。その他、福祉会館・障害者福祉センター・広報等で周知を図る予定。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問等あればお願いしたい。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉共同作業所だけ直営で運営しているということはどのような理由からか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・直営ではなく、これまで通り委託の形。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他の作業所は、市の事業ではないはず。ここだけ市の事業となるのはなぜか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、市が全面的に実施してきた事業だったため、このような形となる。 ・その他の事業所については、各事業所の方針等もあり、それは尊重しているところ。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉会館の地下1階にあるということは、場所を用意してそこを委託するという関係なのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・設置基準に則した形をとるが、施設面では大きな変更はない。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の話として質問している。直営ということは市で場所を準備し、委託をしていくという方向ということか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も福祉会館の中で継続して委託するということ。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉会館から出た場合は、場所の提供はして、委託はしていくということなのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうなる。 ・保護者の方からの意見を聞くと福祉会館の中にあるから、共同作業所を選んだという話は出ている。地域の中に作業所があるということを高く評価してもらっている。 ・福祉会館の問題もあると思うが、保護者の意向に沿った形として、地域の方の目に触れる機会が多い福祉会館の場所で、このまま運営を継続していきたいと思っている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他に質問等あればお願いしたい。
一同	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。

(2) その他

矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・12月4日（火）に平成24年度東京都自立支援協議会セミナーが開催され、シンポジウムがあった。 ・資料2は、調査報告の資料となっている。シンポジウムの資料は、冊子となっているため、今回は省略した。時間を見て必要な部分についての資料提供はしたいと思っている。 ・精神に障がいのある人の支援の流れになっているというところを感じた。病院から退院して地域で生活していくためには、どのような支援が必要かということが大きなテーマとなっている。 ・相談支援事業の役割はとても重要。第2部では、厚労省の遅塚相談支援専門官からの報告があった。資料は、厚労省のホームページに掲載されていると思う。 ・地域にどれだけ個別支援の流れを作っていくのか、また地域の中でのその受
-------	--

	<p>け皿となる事業所をどのように増やしていくのかということが非常に気になった。しかし今回は、講演のみで質問できる時間がなかったため、その辺りの話を聞くことはできなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足立区の特定相談支援事業の現状としての報告があったが、基幹相談支援事業は、足立区が直営で設置。しかし、そこだけでは担い切れない状況から、特定相談支援事業所を区内に 9 か所準備して、来年度に向けての申請を行なっている。どれだけ事業所を確保していくのかということが課題。 ・府中えりじあ福祉会の「地域生活支援センタープラザ」では、3 名の常勤と非常勤の 2 名で回しているが手一杯な状況。しかし、事業所内で、いくつかの施設運営を実施しているため、そこの職員と調整しながら運営している。同じ法人内での調整であるため、割とスムーズに連携が取れている。他の事業所との連携なると、動きに時間がかかる部分も出てくる。いずれにしても人手は必要。 ・小金井市の就労支援センターも含めた相談支援事業所 3 か所が軸となり、どのようにやっていくのかということが課題になる。いずれの施設も常勤が 2～3 名の体制。この体制でどのように進めて行くのか検討していく必要がある。 ・厚労省からは、公開されていない計画相談の請求件数の資料についての説明もあった。4 月から 8 月までの請求状況として、東京都は 41 番目という状況だった。全国的には、九州が遅れている。人口が少ないところは進んでいる。単なる数値目標ではなく、実態に合った小金井独自の目標を掲げる必要がある。 ・1 月に多摩地域自立支援協議会交流会が立川で開催される。かなりリアルな話も聞けると思われるため、参加できる方は、出席をお願いしたい。 ・全体の感想として、課題は多くあると感じた。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会がうまくいかないというような声が聞かれるが、うまくいつている等の話はあったか。 ・精神障がいが多いとの話だったが、知的障がい等はどのような状況なのか。また、先程までの協議にもあった児童・学齢・発達支援の部分も小金井市は弱い。 ・他市では、ゼロから作っていかないといけない状況があるが、市役所へ相談してもお互いが首をかしげるような頭を悩ませている状況になっていると聞いている。 ・自立支援協議会が重要な役割を求められているが、対象の年齢幅や対象の広がり、構成メンバーなど様々な課題がある。その部分を充実させていくことが重要だと思われる。その辺りについての話等はあったか。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の自立支援協議会は、今年度は 1 回しか開催できていない。今回のような講演会で終わってしまうのではないかと話だった。分科会が数回開催されているのみで、全体を把握する東京都の状況としては心許ない。 ・前回のセミナーでの報告だったが、ネットワークが進んでいるのは、あきる野市だった。人口も事業所も少ないが、どこに誰がいるという地域の顔がよくわかっているため、具体的な話が進みやすい。自立支援協議会の中でも話が進みやすい。個別のケースの検討もできていた。 ・東洋大学の先生からは、過疎地は地域の顔がわかっているため、その中で自立支援協議会を進めると、ネットワークの構築へとつながりやすいとの報告があった。東京都の問題は、地域の顔や状況がわかりにくいこと。 ・小金井市の中では、民生委員の役割が重要との話が出ているが、高齢化の問題もある。民生委員は高齢者から障がいのある人など多くの人を支えているが、

	<p>その報酬はボランティアに等しい。民生委員に頼るのではなく、行政の責任で実施できる体制を作る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場で抱えているケースを通して、いくつかの雛型ができれば、対応のしやすさにもつながる。 ・相談支援のスタッフ体制の強化が重要。人件費の問題にも関わるため、福祉保健部長にぜひ検討をお願いしたいところ。 ・あきる野市のエリアは広いが、地域ごとのまとまりがある。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・あきる野市の自立支援協議会の担当者は、目指している方向がはっきりしている。具体化するために動いていく人。 ・問題は山積しているが、目指す方向がなかなか一本にしばれない。自立支援協議会がどのような役割を果たして、市とどのようにしていくのかということが、よく見えない。その場の対処で終わってしまうところがある。もう少し明確にならないといけないと思う。そうだよな、というところで終わってしまうのはもったいない気がする。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも、障害者計画には課題が記載されているが、その中のどれをやっていくのかという議論にはなっていた。期間を定めて重点で検討していく必要はある。それができたら次ということにしないと深く掘り下げられない。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先程、高橋会長からも話があったが、いろいろな会議がたくさんあって充実しているとは言えるが、それぞれの会議のところで終わってしまう状況。結局結びつかないで終わってしまう。自立支援協議会とは、何なのかということの検討は必要。自分達の立ち位置が難しいと感じる。どのようにしていったらよいのか。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・あきる野市の自立支援協議会の担当者は後輩でもあり、よく知ってはいるが、その人の個性という部分もあるため、それをそのまま小金井市へということは難しいと思う。 ・顔が見える関係性での議論も重要ではあるが、それ以上にもっと大きなところの議論をする場所という必要性もある。 ・生まれてから高齢になるまでを焦点化しても、なかなか難しい。同時並行でいろいろな問題が動いてくる部分もある。 ・会議の統合化が必要。対市交渉を深めていったり、決定したりする会議が必要と感じる。小金井市にふさわしい自立支援協議会のあり方について検討していく必要はある。 ・発達支援については、3部7課でやっているが、意見交換会を実施しても、決定はしない。今後は、発達支援も障害福祉課が所管していくのであれば、この場もきちんとした決定機関となっていくと思われる。実践的な話をする部分と対市交渉の部分の二側面が必要になる。全体会と分科会と設定したが、その方法だけでよいのかという課題もある。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・横軸が生涯にわたるということを考えると、縦軸が身体・知的・精神の3障害の軸となり、発達や難病も含まれている。枠が大きくなってきている。 ・例えば移動支援の活用方法は、その障がいの程度や家庭環境により様々。利用方法については地域生活支援事業としての枠内のみとなる。利用しやすい形へと拡充はしたいとは考えてはいるが、調整は難航している。 ・横軸と縦軸の幅が広いため、スポットが合わせにくい状況はある。 ・3年ごとに計画の策定が入ってくる。それが入ってくるため、自立支援協議会の議論が途中になってしまう。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会の小金井スタイルについては、提案していききたいとは思っているし、提案をしてほしいと思っている。何かしらの形が見えるような自立支援協議会にしていきたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員が自分の分野を背負って参加している。ひとり 1 課題以上を持って、その問題を追及していくしかないと思う。 ・自立支援協議会の意見が市の中で、どのくらい影響力を及ぼすのかわからないが、その力を持たせていくのであれば、この場は強力な発信源としてやっていかなければならない。 ・傍聴がひとりとなっている状況では問題。傍聴が大勢いる中で、事務局も緊張感を持って臨む必要がある。 ・今年度は、防災・発達支援・相談支援という形で進めているが、その議論をしながら、立ち位置や方向性を探っていく必要はある。行政を頼るのではなく、自分たちで検討していく必要がある。やっていきたいことをどんどん挙げてほしい。重要な協議会だとは感じている。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会の位置づけは変化しているため、要綱の見直しも必要と感じている。 ・自立支援協議会を一番上に持っていききたい。自立支援協議会といえば、障がい者施策の舵取りをしているところ、という位置づけにしたい。その下に就労や発達支援、食育などの検討があり、それを吸い上げる形で自立支援協議会が存在する形をとりたい。 ・「小金井しあわせプラン」では、重要施策として就労支援や相談支援の事業所の具体的な目標値を設定している。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市の教育委員会が同じ土俵へあがってくるというのはなかなか難しいこと。 ・障がいとしたいくない親御さんの抵抗感等を考えると発達支援事業の所管は保育課がよいと思う。しかし、実際に障害福祉課が所管となってしまう結果となった。決定した以上はどうすることもできないため、障害福祉課は間口を広げた柔軟に対応する姿勢を示し、少しでも抵抗感のない状況にしてほしい。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保育は児童福祉法の規定の中でやっているし、障がいは障害者自立支援法の規定の中でやっているという縦割りの難しさはある。3 部 7 課でやっていることが良い点もあるし、難しさもある。来年度からは、障害福祉課が児童発達支援センターを所管し、窓口を一本化することで動きやすくなる部分もある。縦割りではなく、うまく連携してやっていききたいとは思っている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が若い。夢を語る。子どもに対する期待も大きくある。保護者を絶望させないことが重要。頑張ったけど、結局ダメだったでは希望が持てない。希望や夢、将来を語れる施策にしてほしい。そうならなければ、賛同は得られない。

3. 事務連絡

(1) 次回（第7回）の開催について

高橋会長	・事務局よりお願いしたい。
事務局 (藤井係長)	・次回の会議は、1 月 22 日（火）の 14 : 00～16 : 00。場所は、前原暫定集会施設 A 会議室。

(2) 2 月（第8回）の開催日程の変更について

事務局 (藤井係長)	・ 第 8 回の会議は、事務局の都合により、2 月 26 日 (火) から 2 月 28 日 (火) の 14 : 00 ~ 16 : 00 へと変更する。場所は、前原暫定集会施設 A 会議室。
高橋会長	・ その他、連絡事項はあるか。
矢野副会長	・ 次回の会議終了後に、相談支援の検討会を 15 ~ 20 分程度開催したい。
一同	・ 異議なし。
高橋会長	・ 本日の会議は、これにて終了する。

以上